

中世末期京都出土の備前焼胎土分析について

浜中邦弘・白石 純

はじめに

16世紀末から17世紀初頭にかけて三条通りの大橋西側に焼物を販売する店が軒を連ねていた。「三条せとの町」と呼ばれる界隈で、発掘調査で大量の桃山陶器が出土したことにより非常に注目され、桃山陶器を研究する上で重要な位置づけがなされることとなった。これまでいくつかの調査が行われたが、平成7年度（1995）の下白山町地点で興味深い備前資料が数多く見つかった。

平成7年度（1995）の共同住宅建設に伴う発掘調査で、屋敷地裏側にあったと想定される複数の土坑が出土し、廃棄年代は元和年間（1615～1624）頃に位置づけられている。信楽、伊賀、備前、唐津、高取が半数を占め、いずれも歪みが強調され、透かしや播座や脚付等の作為を強調したものが多くのが特徴的とされる。これらの資料は現在のところ生産地である備前の窯場同定ができていない。生産地である備前市の研究者たちの疑問の一つであった。また同志社大学では今出川キャンパス構内（上京）の調査を数多く行ってきたが、備前焼は出土するものの、前述のような特徴をもつものは出土しておらず、上京地域では管見の限り確認できていない。こうした状況をどう解明するか方法の一つとして胎土分析によって明らかにしようというのか今回の試みである。用語の煩雑さを避けるため分析資料について「備前焼」と「」付きで説明を進めていく。

胎土分析には備前焼及びその関係資料を数多く分析されている岡山理科大学の白石純先生にお願いした。その分析結果について公表するものである。（浜中）

2 分析目的と分析試料

この胎土分析では、京都市上京（常磐井殿町遺跡、相国寺旧境内）、下京（下白山町地点）の3遺跡で出土した「備前焼」の産地推定を行った。特に下京の下白山町地点の試料は三条せとの町という焼き物屋地点出土の試料で、備前焼でない可能性があるものである。また、上京と下京で地域が異なることで胎土に違いがあるのかどうかについても検討した。

分析試料は、図1～3に示した常盤井殿町遺跡、相国寺旧境内、下白山町地点の各遺跡から出土した20点の「備前焼」で、器種としては、花入、健水、鉢、水指等である。

分析装置および測定条件などは以下の通りである。

分析装置：エネルギー分散型蛍光X線分析計（日立ハイテクサイエンス社製 SEA5120A）

測定条件：管球ターゲット Rh、励起電圧は50kV・15kV・7kV、管電流は4 μ A～1000 μ A、測定時間は300秒、雰囲気は真空中で測定した。

分析試料：3g程度の試料を乳鉢で粉末にしたものを加圧成形機で約15 ト の圧力をかけ、コイン状に成形したものを測定試料とした。したがって、一部破壊分析である。

3 分析結果

測定した元素（酸化物）は、 SiO_2 、 TiO_2 、 Al_2O_3 、 Fe_2O_3 、 MnO 、 MgO 、 CaO 、 Na_2O 、 K_2O 、 P_2O_5 の10成分で結果は表1に示したとおりである。

これまでの陶器の胎土分析では、 TiO_2 、 CaO 、 K_2O の3成分に顕著な違いがみられたことから、これらの元素を用いて散布図を作成し、胎土の違いを検討した。

そして備前系陶器の産地推定では、生産地の窯跡として備前焼以外に、兵庫県大部谷、村森、山本窯、京都府安久窯の各生産地について、これまで検討している。このたびの産地推定でもこれらの各生産地と比較検討した。

図4 K_2O - CaO 、図5 TiO_2 - CaO 、図6 K_2O - TiO_2 の各散布図は、各生産地の窯跡と京都市市内の各遺跡より出土した20点の試料をプロットしたものである。これらの散布図から試料番号2の常盤井殿町遺跡出土の健水をのぞいた他の試料すべてが一つの領域にまとまり、このまとまりは備前焼窯の領域内にすべて分布した。また、2の健水は、京都府舞鶴市の安久窯の領域には入らないが、その近くに分布した。

また、上京と下京の地域により胎土に差異があるかどうかでは、明確な差異はみられなかった。

(白石)

4 まとめ

以上の分析結果から、以下のことが推定される。

1. 常盤井殿町遺跡、相国寺旧境内、下白山町地点の各遺跡から出土した20点の「備前焼」のうち、常盤井殿町遺跡出土の試料番号2の健水をのぞいた他は、備前で生産されたと推定された。そして、2の健水は、舞鶴市安久窯付近に分布したが、完全に一致しなかった。

今回の分析では2の健水は産地を明確に推定できなかった。

2. 京都市内出土の「備前焼」が地域(上京か下京)により産地に違いがあるかどうかでは、明確な差はみられなかった。ただ、上京の分析点数が少なく、十分な比較ができなかった。したがって、今後の課題としては消費地遺跡の分析試料を蓄積し、地域により産地が異なるのか再検討する必要がある。(白石)

おわりに

以上分析結果をみてきた。同志社大学出土資料4点のうち資料番号2以外は備前で生産されたものと判断された。少量の分析のみで上京全体の様相を説明できるとはいえないが、一方下白山町地点の遺物も備前の生産地である胎土と一致することが明らかとなった。

現状では生産地の備前では窯場が明らかになっていない。京都やその近郊に備前の土を運び込み、生産された可能性も考えられなくもないが、鍋島の事例にもみられるように生産地に指示して作らせるほうが理解しやすい。また他の問題として下白山町地点出土のこうした特徴的な焼物がどこに供給されたかであろう。

今回の胎土分析によって解明するどころか課題点がいくいつか浮彫としてあがってきたが、当該期の備前焼を研究する上で貴重なデータを提供できたものとする。(浜中)

主な参考文献

根津美術館『新・桃山の茶陶』 2018年

備前市教育委員会『備前と茶陶～茶道の視点 考古学の視点～』 2011年

京都市文化財保護課『三条せと物や町一桃山茶陶一』京都市文化財ブックス 第30集 2016年

白石 純「胎土分析からみた備前焼と備前焼類似品」『半田山地理考古』第4号岡山理科大学地理考古学研究会2016年

最後に今回の分析資料に際して公益財団法人京市埋蔵文化財研究所大立目一氏、京都市文化財保護課の西森正晃氏には格別のご配慮を賜った。感謝したい。

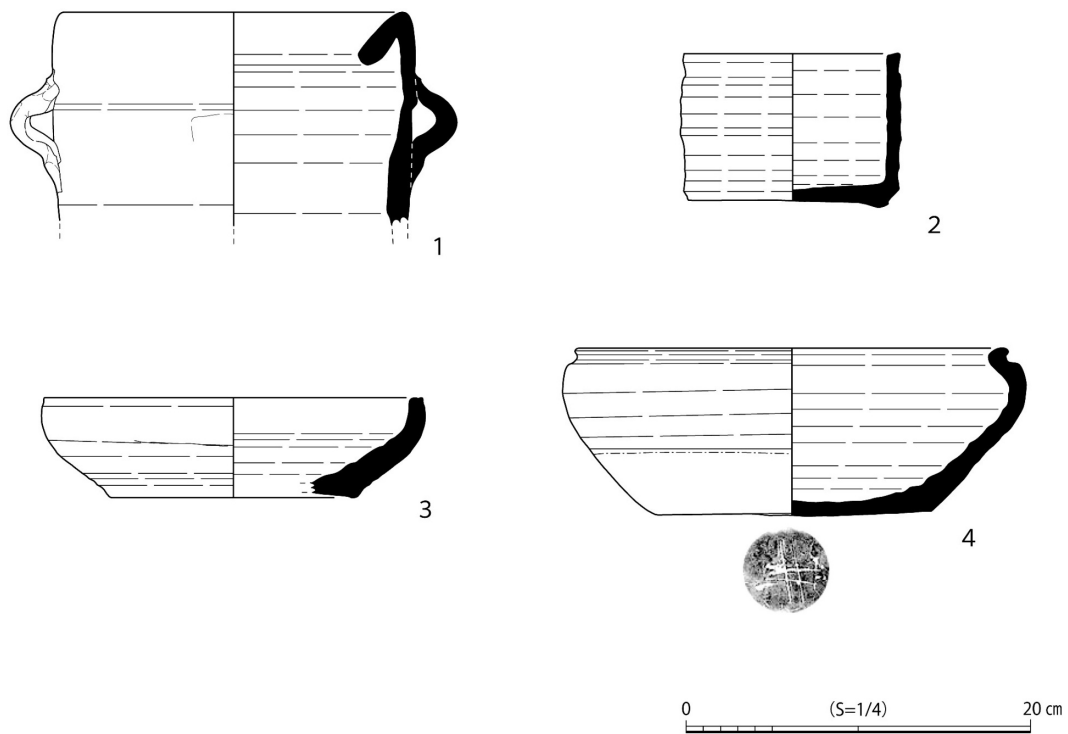


図1 分析資料(1)…常盤井殿町遺跡、相国寺旧境内(上京)



図2 分析資料(2)…下白山町地点(下京)



図3 分析資料(3)…下白山町地点(下京)

表1 京都市内出土備前焼の胎土分析結果一覧表

(%)

写真番号	器種	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	遺跡名	地域
1	花入	74.97	0.62	14.89	3.88	0.06	0.66	0.67	0.82	3.21	0.05	常盤井殿町遺跡	上京
		74.74	0.63	15.06	3.85	0.03	0.72	0.67	0.67	3.36	0.05		
2	建水	77.96	1.46	13.04	3.18	0.00	1.58	0.14	0.00	2.46	0.06	相国寺旧境内	
3	鉢	70.43	0.92	16.58	5.82	0.03	2.00	0.65	1.01	2.42	0.04		
4	鉢	70.43	0.92	16.49	5.79	0.08	1.97	0.67	1.02	2.44	0.05	相国寺旧境内	
		75.45	0.67	14.58	4.02	0.06	0.54	0.58	0.71	3.10	0.06		
5	花入口縁	73.91	0.64	16.83	4.20	0.06	0.41	0.56	0.14	3.07	0.05	下白山町地点	下京
6	花入頸部	74.62	0.64	15.97	4.21	0.07	0.38	0.57	0.44	2.96	0.04		
7	花入底部	74.36	0.66	16.48	4.26	0.03	0.35	0.53	0.21	2.99	0.04		
8	花入底部	73.44	0.63	16.76	4.19	0.03	0.87	0.58	0.37	2.96	0.05		
9	建水口縁	72.53	0.68	16.68	4.63	0.05	0.81	0.84	0.59	2.89	0.04		
		73.20	0.70	16.69	5.04	0.04	0.20	0.91	0.00	2.97	0.03		
10	水指緋襷	72.89	0.66	16.50	4.96	0.02	0.64	0.66	0.54	2.98	0.04		
11	水指口縁	74.47	0.68	15.63	4.75	0.06	0.40	0.66	0.25	2.97	0.03		
12	水指口縁	74.27	0.63	16.23	4.45	0.04	0.40	0.67	0.00	3.08	0.04		
		73.45	0.66	16.18	4.32	0.03	0.85	0.62	0.78	2.95	0.04		
13	水指	74.19	0.60	16.25	4.42	0.00	0.16	0.54	0.00	3.60	0.03		
		73.44	0.58	16.27	4.35	0.01	0.33	0.58	0.64	3.57	0.03		
14	水指底部	73.73	0.67	15.85	4.79	0.11	0.58	0.66	0.38	3.08	0.05		
15	水指底部	71.00	0.65	16.93	4.66	0.09	1.84	0.66	0.88	3.02	0.05		
		72.25	0.73	16.77	4.82	0.09	0.69	0.76	0.55	3.15	0.05		
16	水指底部	73.74	0.72	16.06	4.87	0.05	0.54	0.77	0.04	3.03	0.05		
17	水指底部	72.77	0.69	16.30	4.60	0.05	1.00	0.89	0.62	2.84	0.04		
18	水指底部	73.35	0.67	15.96	4.50	0.08	0.82	0.62	0.71	3.04	0.04		
19	水指脚	72.06	0.56	15.36	6.53	0.06	0.93	0.64	0.67	3.04	0.05		
20	不明底部	75.52	0.62	14.87	3.82	0.02	0.51	0.71	0.49	3.20	0.05		

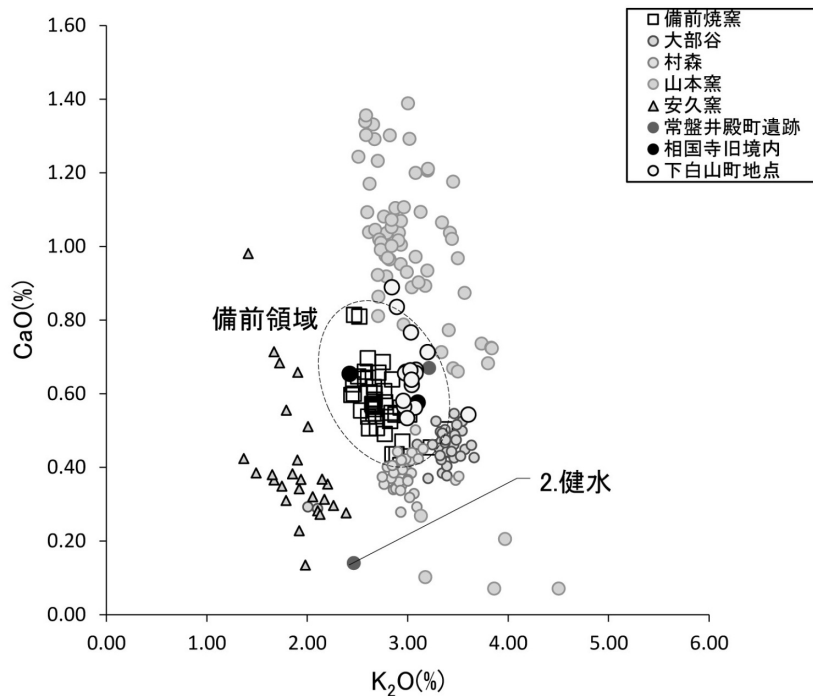


図4 京都市内各遺跡出土備前系陶器の産地推定

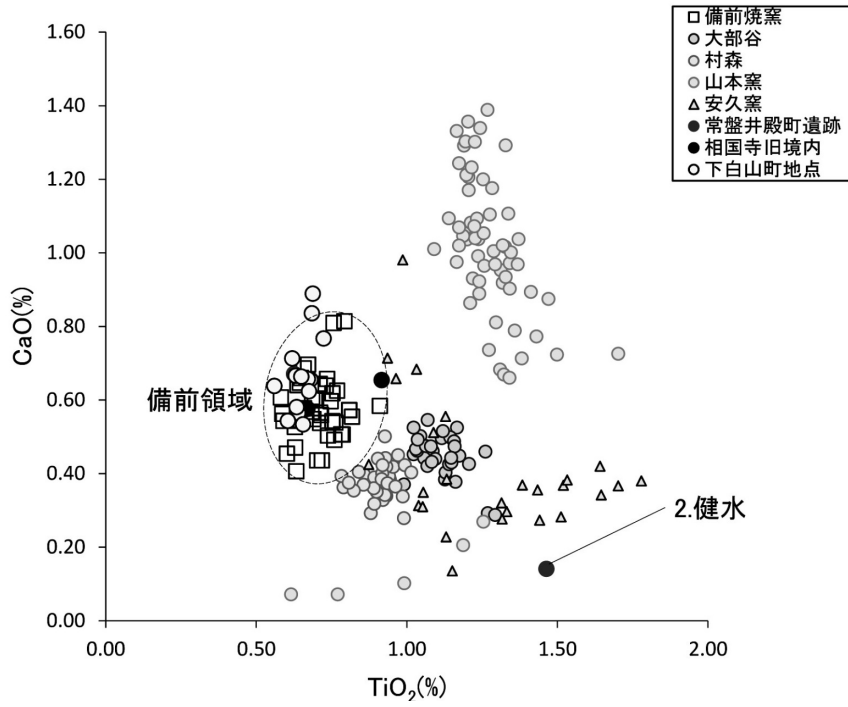


図5 京都市内各遺跡出土備前系陶器の産地推定

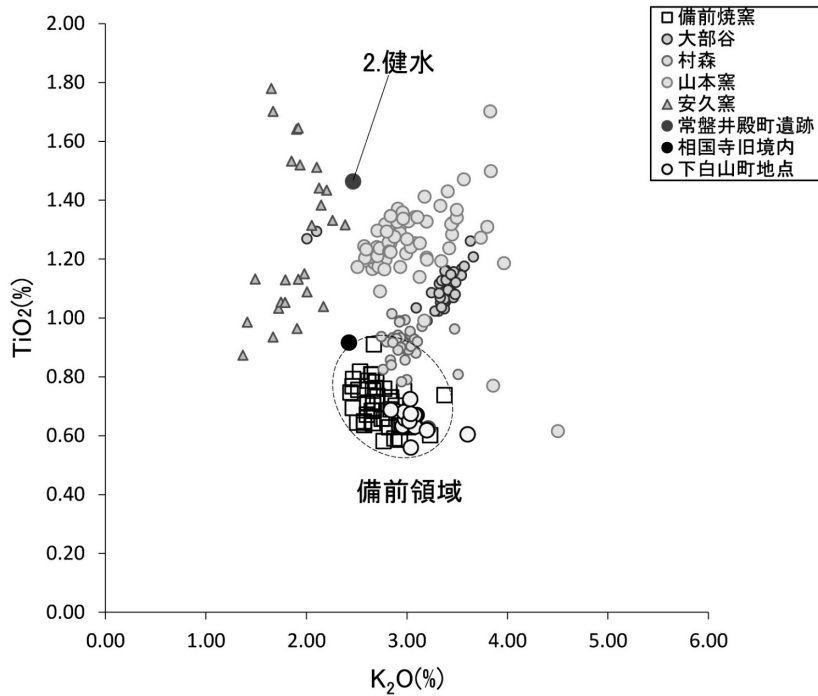


図6 京都市内各遺跡出土備前系陶器の産地推定